

上京 史蹟と文化



美を創る

今回は、江戸中期創業で約200年の歴史を持つ生麩専門店「麩嘉」の本店にお邪魔して、7代目 店主 小堀周一郎さんにお話を伺いました。

今年は春先から暑かったが、いよいよ本格的な夏になってきた。この時期になると麩饅頭が恋しくなる。笹の香り、麩の弾力、甘いこし餡、それらが冷たさと調和して、つるんと口の中に入ってくる。「麩嘉」は京都御所にも麩を献上されてきた歴史があり、ここで生まれた生麩饅頭は、生麩が好物であった明治天皇のアイデアだったらしい。

本店は趣のある京町家で、夏場はお多福の麻暖簾がにこやかに出迎えてくれる。床の間には季節の花が楚々^{そそ}と生けられており、風格と気品を感じる。本店と言いながら、商品が陳列されたショーケースなどとは見当たらない。本店では小売りをせず、主に料亭などに卸される生麩の製造と、錦市場の店舗で販売される麩饅頭などの予約を承っている。

生麩は、小麦粉に水を加えて練り、抽出したグルテンを餅粉



「麩嘉」7代目 店主

小堀 周一郎

上京区東裏辻町

とあわせて蒸したものだ。日本の伝統的な食材と言われるが、高級品であるが故、馴染みがあるほど食べた人は少ないのではないのか。かくいう私も生麩を買って家で食べた経験は多くはない。お話を伺ったのは、麩嘉7代目・小堀周一郎さん。第一印象は…大きくて強そう。そのはずで、かつてはラグーマンとして名を馳せた事がある。繊細な味の生麩、ほんのり甘く可愛い麩饅頭、それらと小堀さんの見た目とはイメージギャップが大きい。しかしながら、小堀さんが以前、ニューヨークに構えていた精進レストランではミシュラン二つ星を獲得。京都の伝統文化を受け継ぐ、その味覚、手腕、目線、こだわりは、世界が認めているのである。小堀さんが家業を継ぐ際、先代の父から言われた。「経営者になるな。その店の味は、店の主人が作らなアカン」。それを自身の信念として揺るがさず、他の職人たちと同じように修行を重ね、35歳で麩嘉7代目に就任した。「私自身が、職人として生麩をつくることができる」。これが小堀さんの強みだという。

生麩の成分は60%以上が水。良い水を大量に使わないと美味しい生麩はできない。京の町は昔から山紫水明の地として名高

いが、特に、この地に湧いていたのは京都名水のひとつ「滋野井」。麩嘉の生麩は、この地下70mから汲み上げた水を使っている。「水質の良さはもちろん、水温が15℃くらいで一定していることも生麩作りに向いています」との事だ。

生麩はシンプルな材料と工程で製造されるが、他にはない麩嘉の魅力は何か。「職人が手作業で製造しています。料亭のオーダーに合わせ、季節の食材を取り入れています。例えば生麩に入れる銀杏の殻をむくことも自分たちでやり、梅干しも自分たちで選びます。材料を選ぶこと、機械化しないことを大事にしています」。機械化をすると効率的に大量生産ができるかもしれない。しかし

それは、素材を機械が対応できる状態にしないといけないということであり、結果的に品質を下げることになりかねない。生麩に真摯に向き合う麩嘉の姿勢を感じた。

一般小売りは控え、料亭からの受注生産を主としている麩嘉。「料亭に育ててもらいました。その御礼の気持ちもあつて美味しい食べ方などをお伝えしています。そんな



人間関係がとても大事で、今では近所の有名な料亭の方がお庭で育てた茶花を、咲いたよーと、わざわざ自転車に乗って分けてくれるんですよ。それを床の間に生けさしてもってます」。いいものをつくるための思いを共有できる人間関係が京都の文化であろう。職人としての信念、真摯に向き合う姿勢、そして人間的魅力が麩嘉の「美」なのだと感じた。

麩饅頭は、もともと「麩嘉饅頭」と呼ばれていたように、麩嘉が起源の銘菓。これを包むためのこだわりのクマザサは、左京区花脊別所のものが香り高く、葉の表面に産毛が生えていないため食品を包むのに適している。しかし、このクマザサが近年、シカの食害などにより絶滅の危機に瀕している。

麩嘉では、防鹿柵ぼうろくさくの設置等、ニホンジカからクマザサを守る活動に加え、左京区花脊に京都の特産物を未来に残すために「花脊農園」を作り、花脊のポタニカルを使ったクラフトジンを作るなど、食の未来を繋ぐ取り組みを継続実践されている。小堀さん曰く、「マニといった取組が注目されていますが、一方で、山椒や黒文字、柚子、桂ウリ、どれもいいものがとれるのに、人手不足、高齢化などを理由に止めてしまつのは本当に惜しい」。小堀さんの思いと行動は、食の文化を守る大きな道標となっている。

取材を終え、伺ったお話を胸にしまつ。麩嘉がニューヨークで精進レストランを出店した時、ニューヨークタイムズの一面を飾ったというお多福の暖簾をくぐり、よく冷えた麩饅頭を口にした時のような爽やかな余韻に浸った。

(be 京都館長…岡元麻有)

ぶらり上京

『源氏物語』の舞台を巡る(花宴巻・賢木巻)

— 平安京内裏・後宮の人々(2) —

同志社女子大学嘱託講師 飯塚ひろみ

『源氏物語』には四人の帝が登場します。前号では、『源氏物語』における最初の帝である桐壺帝の後宮に焦点を当てました。本号では、二人目の帝で光源氏の兄にあたる朱雀帝の後宮に関連する事柄を紹介します。

花宴巻 — 春の夜の出逢い —

二月の二十日あまり、南殿なでんの桜の宴うたげさせたまふ。后、春宮とうきうの御局ごきゆう、左右さゆうにして参上りたまふ。弘徽殿女御こうきでんのにようご、中宮のかくておはするををりふしごとに安からず思せど、物見にはえ過ぐしたまはで参りたまふ。(花宴巻)

桐壺帝の御代の最後となる花宴

巻の冒頭です。旧暦二月の二十日過ぎ、桜の花の咲く南殿(紫宸殿)で宴が催されています(花宴巻①)。光源氏の母である桐壺更衣の亡き後に入内しなごした藤壺の宮はすでに后(中宮)に、弘徽殿女御の産んだ第一皇子(後の朱雀帝)は春宮(皇太子)になっています。この宴で光源氏は優れた漢詩を作り、美しい舞姿を見せ、人々に賞賛されます。桐壺帝の庇護のもと、若き光源氏が最高に光り輝いた日でもありましょう。

この宴の果てた夜、密かに藤壺の宮を慕う光源氏は、宮に逢う機会をもとめ藤壺(飛香舎ひきようしゃ)のあたりをうかがい歩きます(花宴巻②)。

もしさりぬべき隙もやあると、藤壺ふじろをたりをわりなう忍びてうかがひ歩けど、語らふべき戸口も鎖してければ、うち嘆きて、なほあらじに、弘徽殿こうきでんの細殿ほそどのに立ち寄りたまへれば、三の口開きたり。(花宴巻)

しかし、残念なことに藤壺の戸口は閉ざされていました。落胆した光源氏はそのまま隣の弘徽殿に向かいます(花宴巻③)。この夜は、弘徽殿の女御が帝に召されて上の御局(清涼殿の中にある部屋)に行っており(花宴巻④)、弘徽殿の中は人が少ない様子です。開いている戸を見つけた光源氏は、そつと弘徽殿の内部をのぞきました。

人はみな寝たるべし。いと若うをかしげなる声の、なべての人とは聞こえぬ、「朧月夜に似るものぞなき」とうち誦じて、こなたざまには来るものか。いとうれしくて、ふと袖をとらへたまふ。(花宴巻)



相談
無料

見積
無料

見学
無料

明瞭
価格

豊富な
プラン

24時間
365日
対応



0120-004-200



人々が寝静まった中、歌を口ずさみながら歩いて来る若い女性がいます。うれしくなった光源氏はすぐさまその袖を捉えます。これが、後に朧月夜と呼ばれる登場人物との出逢いで、二人はそのまま弘徽殿で一夜を過ごしました（花宴巻⑤）。

やがて、弘徽殿女御を清涼殿に迎えに行く女房たちが起き出す時間となります（花宴巻⑥）。あわただしい中で二人は扇を交換し、光源氏は自分の部屋のある桐壺（淑景舎）へと帰りますが（花宴巻⑦）、逢瀬の余韻が冷めやらず、なかなか眠りにつけません。この一夜の相手は弘徽殿女御の妹のうちの誰かであり、おそらくは五の君か六の君であろうと推測します。もし六の君であったなら、その人は春宮への入内が期待されているので都合の悪いことになると思いつつも、心が惹かれるのでした。

この後、光源氏は右大臣家の藤の宴に招待され、取り交わした扇を頼りに朧月夜と再会しますが、

花宴巻末尾には「いとうれしきものから」（とても嬉しいことであるものの…）とあり、この出逢いが後に光源氏の立場を危うくすることが示唆されています。

賢木巻 — 御代替わり後の後宮 —

花宴巻に続く葵巻では、桐壺帝がすでに譲位し、朱雀帝の御代となつていきます。朧月夜は御匣殿（貞観殿）にある帝の装束を調える役所（の女官という名目で朱雀帝の後宮にありながら、なお光源氏に思いを寄せています。賢木巻になると、尚侍（内侍司の長官、ただしこの場合は女御や更衣に準ずる立場）として朱雀帝からの寵愛が厚いことが語られます。

御匣殿は、二月に尚侍になりたまひぬ。 — 〈中略〉 — やむごとなくもてなして、人柄もいとよくおはすれば、あまた参り集まりたまふ中にもすぐれて時めきたまふ。后は、里がちにおはしまいて、参りたまふ時の御局

には梅壺をしたれば、弘徽殿には尚侍の君住みたまふ。登花殿の埋れたりつるに、晴れ晴れしうなりて、女房なども数知らず集ひ参りて、いまめかしうはなやぎたまへど、御心の中は、思ひの外なりしこともを、忘れがたく嘆きたまふ。（賢木巻）

賢木巻では、桐壺院の崩御に伴い後宮に暮らす人々も変化しています。朱雀帝の即位により大后（皇太后）となつたかつての弘徽殿女御は里邸で過ごすことが多く、参内の際には梅壺（凝花舎）を使うようになり（賢木巻①）、代わりに、弘徽殿には朧月夜が登花殿から移り住むことになりました（賢木巻②）。帝に寵愛されながらも朧月夜は光源氏と心を交わしており、二人は出逢いの場であるこの弘徽殿でも逢瀬を持ちます（賢木巻③）。しかし、この逢瀬は光源氏にとつてかなり危険なことです。なぜなら、桐壺院が崩御した今、光源氏側（左大臣側）にあった権勢は朱雀帝の祖父である右大

 HOSOO

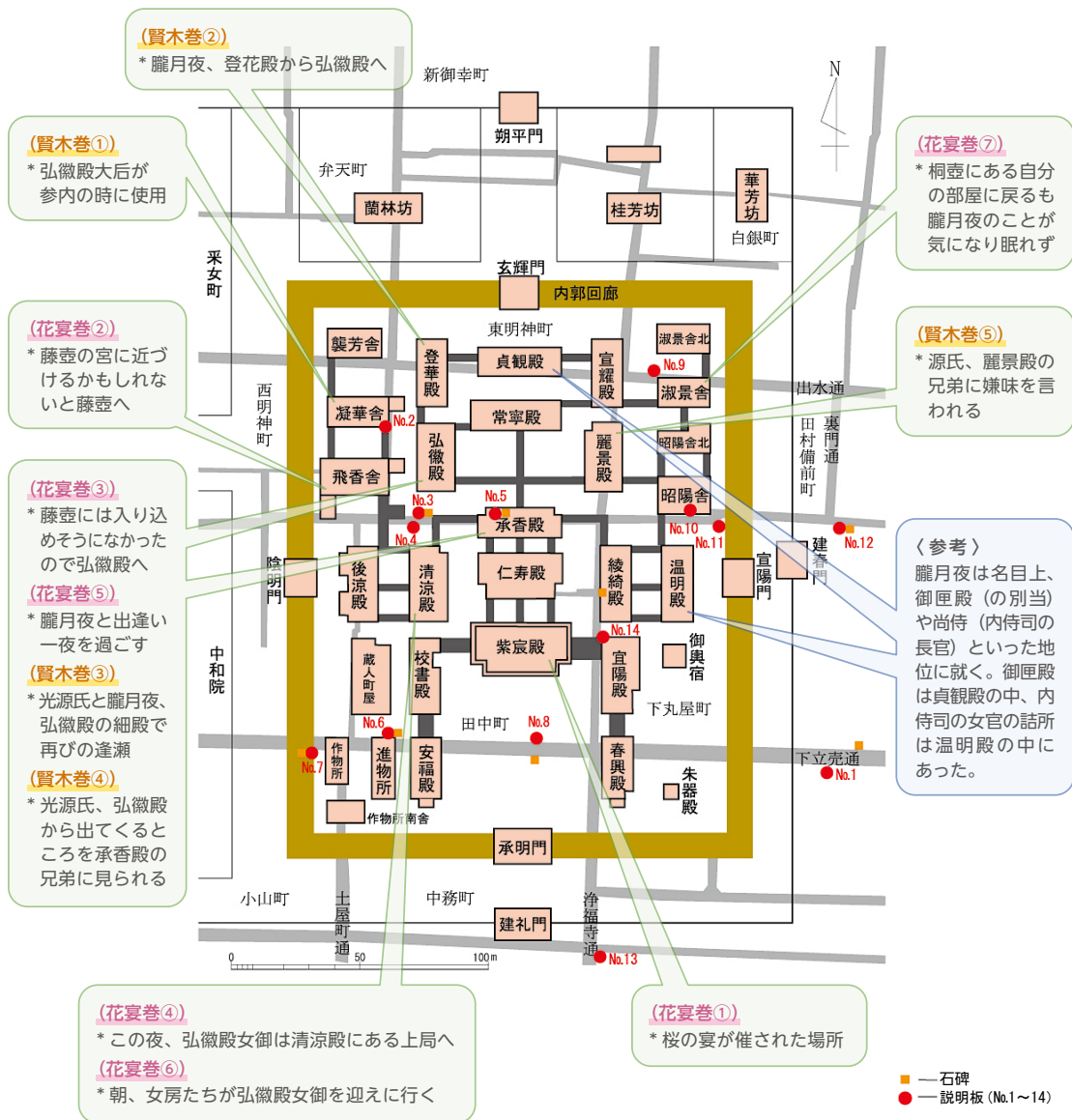
HOSOO FLAGSHIP STORE

〒604-8173 京都市中京区柿本町 412
TEL 075-221-8888 10:30-18:00（祝日を除く）
www.hosoo.co.jp



後宮での出来事

(京都市「源氏物語ゆかりの地」説明板配置図 平安宮内裏跡内)



〒602-8469 京都府京都市上京区中筋浄福寺西入中宮町 300
TEL.075-441-0753 URL: <https://www.nishijin-uoshin.co.jp/>

新・古茶道美術品

清昌堂
やました

京都本店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366

FAX (075) 431-1370

<https://seishodo.com/>

お気軽にお問い合わせください

臣側に移っており、後宮には右大臣側に属する人々が頻繁に出入りしているからです。実際、弘徽殿から出てくる光源氏の姿を見ている人がいました。

静心なくて出でたまひぬ。夜深き暁月夜のえもいはず霧りわたれるに、いといったうやつれてふるまひなしたまへるしも、似るものなき御ありさまにて、承香殿の御兄弟の藤少将、藤壺より出でて月の少し限ある立藪の下に立てりけるを知らで、過ぎたまひけんこそいとほしけれ。(賢木巻)

弘徽殿から光源氏が出てきた際に、隣にある藤壺(飛香舎)から出てきた藤少将(承香殿に住む女御の兄弟)がすぐそばに立っていたのです(賢木巻④)。光源氏はそれに気づかず立ち去りましたが、物語の語り手は、「人に非難されるようなことも起こるだろう」と、その身を案じています。

おそらく、こうしたことから二

人の噂は広まったのでしょう。賢木巻には、朱雀帝が二人の仲を承知していることが記されています。朱雀帝は、「今に始まったことではなく、以前からそうなのだから」というように考え、咎めることをしないのでした。しかし、世間はそうは思わないようです。

大宮の御兄弟の藤大納言の子の頭弁といふが、世にあひはなやかなる若人にて、思ふことなきなるべし、妹の麗景殿の御方に行くに、大将の御前駆を忍びやかに追へば、しばし立ちとまりて、「白虹日を貫けり。太子畏ぢたり」と、いとゆるるかにうち誦じたるを、大将いとまばゆしと聞きたまへど、咎むべきことかは。(賢木巻)

麗景殿にいる妹のもとに行く途中の弘徽殿太后の甥(右大臣の孫)にあたる人物が、光源氏に対して君主への謀反に関連する中国の故事を投げかけます(賢木巻⑤)。光源氏には謀反の心があると言

たいわけです。ここには帝の寵姫である麗月夜との関係への非難が込められていることでしょう。このように、朱雀帝の後宮は光源氏を阻む政治権力に囲まれた場なのでした。

*賢木巻における

朱雀帝後宮の人物配置

○梅壺(凝花舎)

弘徽殿太后

(朱雀帝の母、右大臣の娘)

○弘徽殿

麗月夜

(弘徽殿太后の妹、右大臣の娘)

○登華殿

麗月夜(*後に弘徽殿に移る)

○麗景殿

麗景殿の御方(右大臣の孫)

○承香殿

承香殿女御(後の右大臣の娘)



心しづめの宮 御霊神社 (上御霊神社)

毎月18日 さえずり市(5月を除く)
上京区上御霊前通烏丸東入
電話075-441-2260

上京人物探訪 豊臣秀次

京都産業大学 日本文化研究所

上席特別客員研究員 小嶋 一郎

今回は「豊臣秀次」がテーマです。天下人豊臣秀吉を叔父にもったため、関白の職を譲られ、若いながらも朝廷や公家との橋渡し役を果たしていた矢先に、運命に翻

弄され、遂には高野山で謎の切腹という最期を迎えた悲運の武将です。朝廷や公家達、また聚楽第を頻繁に往来した秀次は、まさに上京を舞台に活躍していた人物です。

■母は秀吉の姉、父は秀吉の家臣。そして三兄弟の長男

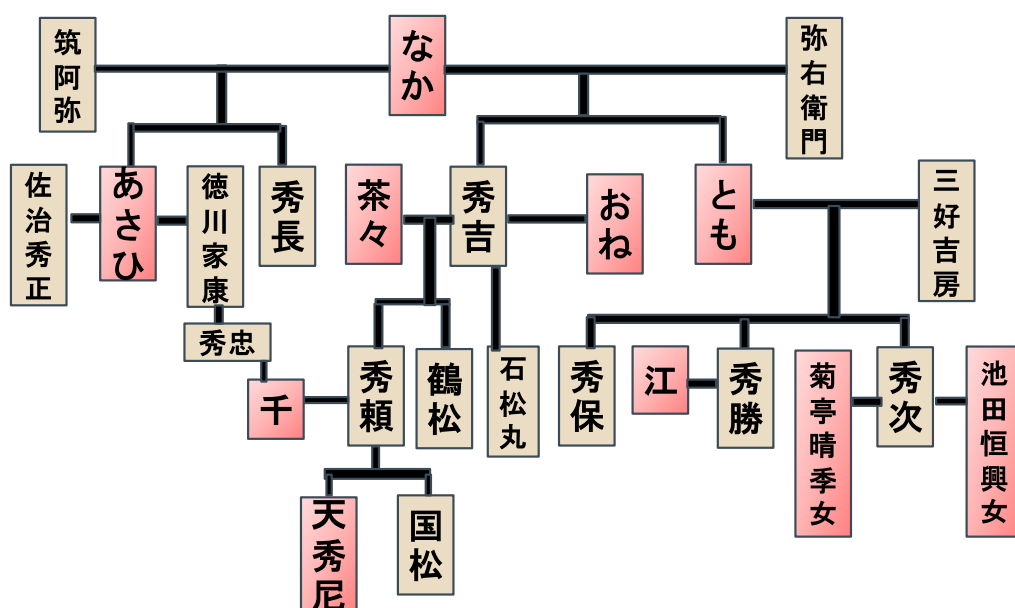
秀次は、三好吉房と秀吉の実の姉の間に永禄11年（1568）に生まれました。弟に秀勝と秀保がおり、秀次と秀勝は叔父秀吉の養子に、秀保はもうひとりの叔父、秀長の養子となりました。

チーム豊臣家を血縁で固めようという秀吉の天下統一構想の登り

坂の途中で、まだ戦さの続く最中でしたが、実子のいなかった秀吉からは家族同様の扱いを受けた、幸せな時期であったことと窺い知れます。

一歳下の弟、秀勝は文禄の役の折、巨済島で戦いの最中、帰らぬ人となり、末弟の秀保は、養父であり叔父であった秀長が亡き後、大和郡山を治めますが、十津川に出かけた際に謎の死を迎えました。兄、秀次の切腹の数か月前のことでした。十代二十代の若さで先に旅立った息子達を想う、両親の心中は、いかばかりであったことでしょうか。母のともは出家し、日秀尼と名乗ります。息子三人の菩提を弔うために建てた寺は、朝廷の支援を受けて、寺地を上京に換え「瑞龍寺門跡」として、長らく堀川今出川の地（西陣織会館辺

豊臣家 家系図(略図)





豊臣秀次銅像（瑞龍寺 俊光堂）
画像撮影協力：瑞龍寺門跡

り）に法灯を護っていました。昭和36年に秀次が治めていた近江八幡の八幡山に、寺は再び移ることになりました。今でも西陣織会館の玄關横には「村雲御所 瑞龍寺門跡」の石碑が建っています。

■教養豊かな文化人

秀次は、秀吉の養子になる前に、四国の雄、三好康長の養子となった父、吉房と共に親子で養子入りをしています。その時期は「三好孫七郎信吉」と名乗っていました。足利幕府の管領、細川家に仕えていた

三好家ですので、かなりの教養をもっていたようです。武士としての鍛錬はもとより、歌や書、漢詩、能楽、茶の湯など、公家とも渡り合うために必要な教養を三好康長から受け継いだと考えられます。

秀次は、十代で堺の豪商、津田宗及の茶会に参じたと言われています。

また長じて、公家の名門、菊亭家（今出川家）の娘を正室として迎えたことで、岳父である菊亭晴季が、秀次の文化度を高める第二のキーマンとして登場します。

秀次が特に得意であったとみられるのは「連歌」であり、当代一の連歌師、里村紹巴とは昵懇で、連歌の会を頻繁に催しました。

叔父から関白の地位を譲られた後も、公家が持っている教養や知識を蓄えていた秀次は、朝廷の中でも堂々と渡り合ったと考えられます。

■聚楽第の主

天正19年（1591）秀吉から関白職と共に、聚楽第を譲り受けた秀次は、朝廷と聚楽第を往還しながら政務に励む忙しい日々であったことでしょう。聚楽第には、公家や諸大名達との社交場としての役割もあつたのです。里村紹巴ら文化人や数多くの公卿を招き、芸能鑑賞や茶会、王朝文学に関するサロンを形成し、政治だけでなく、文化政策をも推し進めました。二十一ある勅撰和歌集を集めて学び、書き写させ、連歌会を開くなど和歌にも益々精進していきました。特に公家達との交際に不可欠な和歌を詠むためには「源氏物



紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御雲前上ル TEL.075-441-5408代
E-mail:info@wako-print.co.jp



京都御所西
護王神社

〒602-8011 京都市上京区烏丸通下長者町下ル
(地下鉄丸太町駅下車北へ7分)

<http://www.gooujinja.or.jp/> 電話 441-5458



足腰の守護神

語」や「伊勢物語」等文学作品から引用することも多く、王朝古典文学の知識が不可欠で、これらも習得していたと考えられます。

■「殺生閼白」という名の汚名

秀次を後世の人達が「殺生閼白」と呼ぶことがあります。閼白の地位を良いことに、家臣や家人を些細なことで切りつけたとか、正親町院の喪に服さなければならぬ

時期に、狩りに出向いていたとか。しかしながら、これらのことは、未だ二十代後半の若者が、百戦錬磨の大名やその家臣達、また手練手管の公家衆達を相手にする内に、精神的に追い詰められた結果の行動を誇張されたのではないかと考えます。

堺市博物館蔵「聚楽第行幸図 屏風（右隻）」
画像掲載協力：堺市博物館



ないか、と考えます。明智光秀が多方面の合戦に行かされ、諸大名や公家、社寺との取次を期待されて次第に精神的に追い詰められていったように、秀次も表向きの華やかな社交場とは裏腹に、ストレスと過労から、精神崩壊寸前だったのでは、と思います。巡らせてしまいます。明智光秀が、信長に精神的に追い詰められた時は五十代後半、それに比べますと、秀次はまだ二十八歳。太閤が築き上げた巨大な組織に押しつぶされても無理もない若者で

した。年を取るに連れ、猜疑心が強くなっていった太閤には、何を申し上げても無駄なことを悟ったのかも知れません。「日の本六十余州を五つに分け、その内ひとつをお拾に、残る四つは秀次に。」と言われ、どう答えても、秀吉の秀次に対しての猜疑心を募らせることになる、と判断したのでしよう。反秀次派の武将が仕組んだのやも知れませんが、高野山へ出家した秀次でしたが、切腹という悲劇的な最期を迎えてしまいます。

京名物
柚 梅



菓 匠 鶴 屋 吉 信

<http://www.tsuryayoshinobu.jp>

新上京の昔ばなし

京都見廻組と佐々木只三郎

元郷土紙記者 山本 雅章

幕府の旗本・御家人で構成

京の都が兵火に見舞われた最後の歴史は幕末維新。当時、京を舞台に角逐した勢力には、尊王攘夷派の公家と長州、公武合体を望む薩摩、土佐、佐幕派の会津、桑名の各藩兵や脱藩浪士の姿が目につく。映画や小説などで華々しく活躍する新選組の近藤勇、土方歳三、沖田総司らの名もあがろう。新選組に比べ地味な存在とみられていたのが京都見廻組。その中心人物佐々木只三郎だが、今では謎多き「坂本龍馬暗殺」の真の実行者として定説化しつつある。動乱の名残をもとめ、一幕ゆかりの場所を訪ねたい。

京都見廻組は、浪人や農民出身も多い新選組とは違い、旗本・御家人の幕臣組織として元治元年（1864）に設置された。頭の役職「京都見廻役」は一万石の名と六千石の大神旗本を任命。下級の旗本・御家人四百人を二組に分けて編成する想定だった。具体的役割は、京の都を囲む御土居を出入りする人物を見定め、市中の見廻りを通じ治安の維持を図るというもの。江戸から家族同伴で京都に移り住んだ者も多く、慶応元年（1865）には駐在する組屋敷が、智恵光院通中立売北側に竣工している。佐々木は、会津藩士

の三男に生まれ、幕臣の養子に入る。見廻組では隊士を指揮するくみがしらと頭つとめがたと与頭勤方数人の内の一人で当時三十代半ば。抜群の働きで頭角を現し、ある時期からは事実上の実権を握ったようだ。

持ち場は御土居の内の警護

警備の範囲は時代・時期により変わっているが、大政奉還から王政復古の騒乱へと続く慶応三年には南は丸太町通辺から北は御土



組屋敷があった智恵光院通中立売北西側あたり

居まで、東は鴨川東岸から、西は御土居までが持ち場とされた。丸太町通から五条通の間は、東側は京都守護職、西側は京都所司代が鴨川と御土居の間を分ち持ち、新選組は五条通り以南に備えている。

慶応三年十一月、海援隊隊長の坂本龍馬と、同じく土佐藩の脱藩浪士で陸援隊隊長の中岡慎太郎が、現在では中京区となつ

ている河原町通蛸薬師の醤油商・近江屋新助方二階で殺害された。この近江屋事件の実行者が見廻組で、指揮したのが佐々木とされる。維新以後、殺害犯を巡っては新選組などさまざまな取りざたされたが、現在ではほぼ定説となっている。

撤回あるいは逃走？ルート

見廻組隊士で、当日の現場にも加わっていた渡辺篤なる武士が、明治になってから記した「渡辺家由緒暦代系図履曆書」（暦の字は原本のママ）によれば、殺害に加わった見廻組は「近江屋のあった河原町通を四条まで下り、四条通を西進、千本通を通り、下立売まで上り、智恵光院通まで進み、北に上って西側にある寺院に帰った」とされる。佐々木が当時の宿所としていた新出水通智恵光院西入の松林寺に符合する。組屋敷にはほど近いが、現場からはかなりの距離である。世に知られた志士

二人を襲撃した後とはいえ、洛中の治安維持に当たった侍たち。襲撃後は堂々と街路を戻ったのか。あるいは血にまみれた姿で人目を避けるように疾走したのか。その心中もうかがい難いものがある。

きよかはちろう 清河八郎暗殺にも関与

佐々木にはもう一つ有名な浪士暗殺、それも自ら手を下したという話がある。文久三年（1863）庄内藩浪人の清河八郎は、京で横行する反幕派浪士の取り締まり組織として「浪士組」結成を幕府に献策。自ら京まで引率しながら、反幕攘夷の本心を表し、浪士組を率いて江戸にもどった人物。それに反対して京に残った芹沢鴨、近藤勇らの「壬生浪士組」が新選組誕生のルーツとなったのは知られるところ。佐々木は、この浪士組の江戸と京との往還に幕府の役人として付き添っており、清河とは面識があった。江戸帰還後、同じ役を務めていた幕臣速水又四郎らと清河を待ち伏せし、二

人が直接手を下した。速水は佐々木と同じころ、同様に京都見廻組の与頭勤方に任命されている。待ち伏せのだまし討ちとはいえ剣客の清河八郎を殺害したことから見ても、二人とも相当腕のたつ武士として、役目に当てられたのだろう。

幕府歩兵隊との衝突

見廻組の逸話の一つに、幕府歩兵隊との衝突事件がある。

北野天満宮に隣接する花街北野上七軒のなかの遊郭「鍵屋哥」なる店に、当時京都に駐屯していた幕府歩兵隊の隊士が来て、遊女を止宿している妙心寺に派遣するよう望んだが、店の方では馴染み客でもないので断った。

兵隊は納得せず帰らない。店側は以前から何かの時には便宜を図ってくれるよう頼っていた見廻組与頭の住まいに遣いを出して注進。見廻組隊士が店にきて居座っていた歩兵を打ち据えた。歩兵の一人が裏口から逃げだして妙心寺に走

京都に生まれて五世紀



虎
どらや

www.toraya-group.co.jp



ぼたん鍋と京料理

元祖
畑かく

京・上御霊前烏丸西

☎〇七五・四四・〇六一〇代



幕府歩兵隊との衝突事件があった東向観音寺

り、この次第を告げると、聞きつけた歩兵の一小隊程が銃器を携えて、逆に見廻組と頭佐々木が当時宿所としていた北野天神の東向観音寺に押し寄せ、二、三発発砲するという事件に発展した。寺は明治の神仏分離までは珍しくなかった神社の境内あるいは隣接地にある神宮寺だ。見廻組の隊士も駆けつけ、多数の人員が刀や槍をもって北野天神の鳥居内に結集し、鳥居の外の歩兵隊と対峙。さらに歩兵隊側も人数が膨らみ、鳥居を挟んでにらみ合う騒ぎになった。

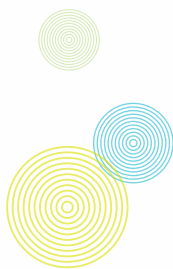
夜になっても小競り合いは収まらなかったが、会津藩士と薩摩藩士が通りかかり、両藩士の周旋でようやく双方が退いたというのが顛末。京都守護職だった会津と、公武合体派で尊王派にも影響力を持つ薩摩の藩士が通りかかったというのも出来過ぎで、当時の混乱した治安状況下、両藩の存在の大きさをうかがわせる。

鳥羽・伏見の戦いで負傷

見廻組と佐々木の最期に少し触れておくと、大政奉還後、徳川慶喜と徳川の軍勢は二条城から大阪城に撤退。それに従って見廻組も一旦は大阪城に入った。慶応四年正月、鳥羽・伏見の戦いで見廻組は鳥羽街道の先鋒として薩摩藩兵と対峙。引き続き激突時には新選組や幕府軍勢と入り混じりながら新政府勢力と交戦。この戦いで佐々木は腹部に被弾し、幕府軍が大阪城まで撤退後は、大阪を経て紀州徳川家の城下・和歌山に船で向い、紀三井寺村（現在は和歌山市）で没したとされている。

※参考文献＝菊地明

「京都見廻組秘録」(洋泉社)など





おこしやす上京 Season2「食の上京」

大河ドラマ「光る君へ」連動企画

「上京が誇る食の有職文化」

- 日時 令和6年9月8日(日) 午後2時～午後4時
- 場所 北野天満宮

- 内容 (1) 生間流三十代目家元 生間正保氏(萬亀楼店主)による生間流式庖丁披露
(2) 太田達氏(有職菓子御調進所老松当主)による講演と椿餅の試食

- 対象 小学生以上
※中学生以下の方は保護者の同伴が必要となります。

- 料金 1人当たり2,000円(前売のみ)

チケットは8月19日(月)9:00から、オンラインのほか
上京区役所地域力推進室(1階1番窓口)にて販売。



問合せ先：上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当 ☎075-441-5040

第58回 上京薪能

- 日時 令和6年9月20日(金)

第一部開演：午後4時(午後3時30分開場)
第二部開演：午後6時

- 場所 白峯神宮 ※雨天の場合：金剛能楽堂

- 演目 能「巻絹」、狂言「梟」、舞囃子「融」、仕舞「籠」「野宮」、箏曲「初鶯」他

- 入場料 前売券 2,500円

※前売券は、8月21日(水)9:00から、オンラインのほか、
上京区役所地域力推進室(1階1番窓口)と白峯神宮にて販売。
※当日券は前売券が残った場合のみ3,000円で販売。



オンラインは
こちらから



問合せ先：京都いつでもコール ☎075-661-3755 ※お掛け間違いに御注意ください。

表紙

題字／吉川蕉仙氏

写真／西陣・千両ヶ辻：清明神社の神幸祭〈撮影：写真家 水野克比古氏〉

清明祭は、安倍清明公ゆかりの清明神社で一番重要な祭儀であり、宵宮祭、例祭、神幸祭の3つから成り立つ。例祭(秋分の日)の午後から始まる神幸祭では、神輿の渡御が見どころで少年鼓笛隊を筆頭とした行列が西陣地区を巡行する。総勢500人が賑やかに西陣地区を練り歩く様子は、多くの人々に親しまれている。また、当日は大宮通界限で千両ヶ辻祭も同時に開催される。

アクセス 市バス「北野天満宮前」下車すぐ
住所 京都市上京区馬喰町
電話 (075) 461-0005

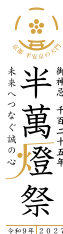


学業成就

災難厄除

北野天満宮

全国天満宮総本社



「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。(TEL 441-5040)
また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。



- 神学部 ●文学部 ●社会学部 ●法学部 ●経済学部
- 商学部 ●政策学部 ●文化情報学部 ●理工学部 ●生命医科学部
- スポーツ健康学部 ●心理学部 ●グローバル・コミュニケーション学部 ●グローバル地域文化学部



同志社大学
Doshisha University
<https://www.doshisha.ac.jp>



お問合せ先 同志社大学 広報部 広報課 TEL : (075) 251-3120



京都人さえもが恋するホテル。



BRIGHTON
KYOTO

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)
TEL.075-441-4411 (代) FAX.075-431-2360
<https://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/>

(東洞院通)
大丸さん北隣のよろず屋 四条店では
時計・貴金属
高価買取実施中!
鑑定書なしでも高額査定!

グループ創業70年の信用と安心
ブランド品 販売・買取 (株)よろず屋

京都府公安委員会許可 古物商 第11061号

ATF全国買戻
ブランド品協会 認定店

本店 地下鉄「今出川駅(6番出口)」隣 ☎0120-25-0700
⑩10:00~19:00 [土曜は18:00迄] ⑩平日曜・祝日 ⑩10台有

四条店 地下鉄「四条駅(20番出口)」すぐ Tel 075-241-7900
⑩10:00~19:00 大丸京都店 北隣(東洞院通) 年中無休

●FGA(英国宝石学協会)認定資格者がおります。●公共機関の鑑定士もつとめています。

「たのんでよかった!」
皆様のそのひとことを目指した
住まいづくりを心がけております。



西陣の大工さん
みずほ工務店

TEL.075-204-8283

<http://www.mizuho-koumu.com>

京都市上京区上立売通浄福寺西入上る真倉町752

本田味噌本店
京都市上京区堂町通一茶五八



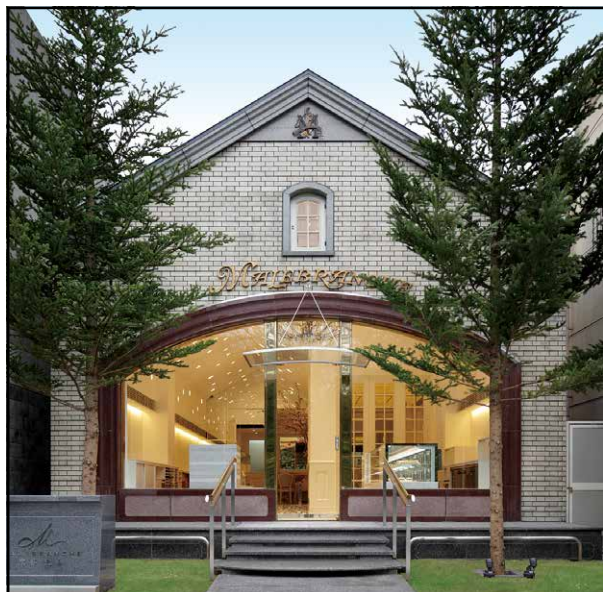
西京白味噌®

<https://www.honda-miso.co.jp>



山田松香木店
香木・薬種・薫香

〒602-8014
京都市上京区勸解由小路町164
(金町通下五上上)
TEL(075)441-4694
FAX(075)441-1124



MALEBRANCHE
京都 北山

洋菓子

マールブランシュ 京都 北山本店

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北山門前
TEL (075)722-3399・FAX (075)702-9440
9:00AM-5:30PM 年中無休 (喫茶10:00AM-5:30PM)
www.malebranche.co.jp

商品予約専用フリーダイヤル ☎ 0120-668-399

単なるデリバリーカンパニーでなく、
人や企業の信頼を結ぶ運送会社です
どんな内容もまずご相談を!

商品のお預かりから梱包作業、配送まで

封入作業・ダイレクトメール(DM)配送・郵便出荷代行

機密書類の溶解処理

ルート配送・チャーター便(軽貨物～4t車まで)

引越サービス



近運貨二第186号(社)京都府トラック協会会員

株式会社 デリバリーサービス

〒604-0907 京都市中京区河原町通竹屋町上ル大文字町238番地

TEL(075)662-8255 / FAX(075)662-8257
<https://delivery-service.jp/>

